

公益財団法人 在宅医療助成 勇実記念財団

2018 年度（前期）指定公募

「成人の在宅医・看護師に対する小児在宅医療講習への助成」
完了報告書

「長崎県小児医療部会による、小児在宅医療研修会」

理念：長崎県において、すべての医療的ケア児が、小児在宅医療を受けられよう、地域の在宅医・小児科開業医・訪問看護師に、在宅医療の講習会を行う。

申請者：下村 千枝子

所属機関：しもむらクリニック

提出年月日：2019 年 4 月 11 日

2018年9月15日 長崎県小児在宅医療第1回県北研修会

演題1 一般開業医が行う小児在宅医療の取り組み

安中外科・脳神経外科医院 院長 安中 正和

長崎県南部では、小児科医在宅医もおり、さらに在宅医療を行う在宅医の集まりである長崎在宅Drネットを利用して、医療的ケア児は、問題なく在宅医を探すことができる。小児科在宅医と連携することで、成人在宅医も、ほぼ問題なく主治医を務めることができる。

演題2 佐世保市総合医療センター小児科を受診している医療的ケア児の現状について

佐世保市総合医療センター小児科 診療部長 角 至一郎

佐世保市を中心と県北地域の医療を担っている当院では、約20名の医療的ケア児すべてが病院への月1回の外来通院をおこなっており、本人および家族の負担となっている。今後、連携による在宅医の関わりを求める。

出席者状況

総数 115名

- 1.医師 19名（在宅医、小児科医開業医、病院小児科医、病院勤務医）
- 2.看護師 24名（訪問看護師、病院看護師）
- 3.病院連携室 4名
- 4.薬剤師 10名
- 5.保健師 15名
- 6.歯科医 0名
- 7.相談支援専門員 8名
- 8.その他の医療・福祉関係者 26名
- 9.教育関係者 6名
- 10.行政関係者 3名

長崎県小児在宅医療 第1回県北研修会次第

(助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団)

日時：平成30年9月15日(土) 15:00~17:00

会場：佐世保医師会館 講堂

座長：長崎県小児科医会小児在宅医療部会 世話人 下村 千枝子

- 15:00~15:05 開会あいさつ 長崎県小児科医会 小野 靖彦 会長
- 15:05~15:35 講演①「一般開業医が行う小児在宅医療の取り組み」
安中外科・脳神経外科医院 安中 正和 院長
- 15:35~16:05 講演②「佐世保市総合医療センター小児科を受診している医療的ケア児の現状について」
佐世保市総合医療センター 角 至一郎 小児科 診療科長
- 16:05~16:15 <休憩>
- 16:15~16:55 討議

《第2回・第3回研修会のご案内》

第2回研修会：11/17(土) 15:00~17:00 佐世保市総合医療センター 2階講堂

第3回研修会：3/16(土) 15:00~17:00 佐世保市総合医療センター 2階講堂

2018年11月17日 長崎県小児在宅医療第2回県北研修会

講演1. 長崎県小児科医 小児在宅医療部会の活動

しもむらクリニック 下村 千枝子

長崎市を中心とした長崎県南部で、2003年より在宅医療に関わる医師たちにより、長崎Drネットが形成された。小児科在宅医の呼びかけにより、在宅医による小児在宅医療が行われている。この地域では、小児在宅医療で、在宅医を探すことは困難ではない。しかし県全体では、在宅医が関わらない地域もあり、2013年より長崎大学小児科を中心に、小児等在宅医療連携拠点事業が行われ、医師・訪問看護師・相談支援専門員を集め、講習会・症例検討会が開催されていた。しかしこの事業も、平成29年度で終了した。佐世保を中心とした長崎県北部では、医療的ケア児20名程度・人工呼吸器管理の症例が4名いるが、全く在宅医が関わらず、病院への通院を繰り返している。この改善のため、県小児科医会に、2018年1月小児在宅医療部会が結成された。現在小児在宅医療の普及のため、活動している。

講演2 長崎市の小児在宅医療に関わる訪問看護ステーションの現状

訪問看護ステーションYOU 所長 金子 和美

長崎市を中心に、医療的ケア児の訪問看護も行っている。小児の訪問看護を行っているステーションは、9か所であるが、実際できるのは2か所で、当ステーションは、10名を担当している。小児は、本人だけでなく、家族の支援が必要である。福祉など十分に整えられていない。在宅医が関われば、いつでも相談できるし、訪問看護師の負担軽減となる。小児の在宅移行を増やすためには、小児に関わる在宅医・訪問看護ステーション・相談支援専門員が増える必要がある。

講演3 佐世保市の小児訪問看護についての実情

訪問看護ステーションかしまえ 所長 佐藤 照美

県北で、小児を受け入れているステーションは7か所で、25名程度と考えられる。県北では、重度心身障害児・者施設がないため、短期入所の施設がなく、2時間以上かけて、県南部や県外の施設を利用している。さらに日中に預け先がなく、在宅医も少なく、すべて病院への通院が必要である。圧倒的に在宅に関する医療・福祉資源が不足している。

出席者状況

総数 98名

- 1.医師 11名（在宅医、小児科医開業医、病院小児科医、病院勤務医）
- 2.看護師 30名（訪問看護師、病院看護師）
- 3.病院連携室 2名
- 4.薬剤師 6名
- 5.保健師 14名
- 6.歯科医 0名
- 7.相談支援専門員 6名
- 8.その他の医療・福祉関係者 26名
- 9.教育関係者 1名
- 10.行政関係者 2名

長崎県小児在宅医療 第2回県北研修会次第

(助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団)

日時：平成30年11月17日(土) 17:30～19:30

会場：佐世保市総合医療センター 2階講堂

座長：佐世保市総合医療センター 小児科 診療科長 角 至一郎

- 17:30～17:35 **開会あいさつ** 長崎県小児科医会 小野 靖彦 会長

- 17:35～17:50 **講演**「長崎県小児科医会小児在宅医療部会の活動」
しもむらクリニック 下村 千枝子 院長

- 17:50～18:00 <休憩>

- 18:00～18:45 **報告①**「長崎市の小児在宅医療に関わる訪問看護ステーションの現状」
訪問看護ステーションYOU 金子 和美 所長

- 18:45～19:30 **報告②**「佐世保市の小児訪問看護についての実情」
訪問看護ステーションかしまえ 佐藤 照美 所長

2019年3月16日 長崎県小児在宅医療第3回県北研修会

講演 小児在宅医療と災害対策～地域に助け手がいること～

医療法人はるたか会あおぞら診療所 ほっこり仙台 院長 田中 総一郎

医療的ケア児がこの10年で2倍に増え、人工呼吸器を受けている小児は10倍に増加した。このような児や家族は、病院への通院負担が大きいため、2015年から大学病院から訪問診療を開始し、その後仙台で在宅診療所を開設し、60名の医療的ケア児に関わっている。また、2011年に東北大震災も経験し、災害時にライフラインが途絶することを経験し、停電時の準備、特に非常電源の確保が必要である。様々な災害対策の機器の説明と、地域協力の必要性を強調された。

出席者状況

総数 87名

- 1.医師 14名（在宅医、小児科医開業医、病院小児科医、病院勤務医）
- 2.看護師 25名（訪問看護師、病院看護師）
- 3.病院連携室 2名
- 4.薬剤師 4名
- 5.保健師 15名
- 6.歯科医 1名
- 7.相談支援専門員 8名
- 8.その他の医療・福祉関係者 15名
- 9.教育関係者 1名
- 10.行政関係者 2名

長崎県小児在宅医療 第3回県北研修会次第

(助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団)

日時：平成31年3月16日(土) 15:00～17:00

会場：佐世保医師会館 講堂

座長：長崎県小児科医会小児在宅医療部会 部会長 岡田 雅彦

■15:00～15:05 開会あいさつ 長崎県小児科医会 小野 靖彦 会長

■15:05～16:25 講演「小児在宅医療と災害対策～地域に助け手がいること～」

医療法人はるたか会 あおぞら診療所ほっこり仙台 田中 総一郎 院長

■16:25～16:35 <休憩>

■16:35～16:55 討議

まとめ

3回の県北研修会の結果、県北地域でも、在宅医との連携による小児在宅医療を開始できるように、準備がはじまりました。

また小児在宅医療に関するメーリングリストが開始され、情報交換が始まりました。

勇実財団支援の活動が評価され、長崎県より、小児在宅医療の推進のため、長崎県小児科医会 小児在宅医療部会に200万の助成金が交付されます。今後とも県全体として、小児在宅医療の普及につとめます。

最後になりましたが、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により3回の研修会を開催できましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。